

# 原子力防災訓練、さらに充実を 耐震改修促進、会計年度任用職員制度などで一般質問

私は12月11日、市議会の一一般質問に立ちました。今回は市の耐震改修促進計画、再来年4月から始まる会計年度任用職員制度、そして原子力防災訓練の3つについて市長に質問しました。以下はその大要です。

【橋爪】当市の耐震改修促進計画は2年前の3月に策定され、今年中間年だ。総合計画後期基本計画案にもある通り、「改修への投資意欲や地震に対する防災意識が高まらず、耐震化工事は十分に

進んでいない」状況にある。取り組みの目標と現時点での課題について、それから今後の方策についてききたい。

【村山市長】耐震化率の将来目標値は、平成32年度末で一般住宅は87%、多数の方が利用する建物は95%と設定した。本年度末の市内建築物の耐震化率はそれぞれ推計値だが、一般住宅は85.5%、多数の方が利用する建物は92%と見込んでいて、平成32年度末には、それぞれ計画に定めた目標値程度に達するものと推計している。市では、今年度から無料とした耐震診断の周知にも努め、所有者から積極的に耐震診断を実施していただき、居住する住宅の耐震性を把握していただく。また、補助事業の活用や

相談対応に努めるなど、市民の皆さんに對し、強く働きかけてまいりたい。

【橋爪】会計年度任用職員制度は、昨年、地方公務員法及び地方自治法の一部改正のなかで新たに登場したものだ。市民から、「新たな待遇格差を生む制度になるのではないかと」などいろいろな声が出てきている。臨時・非常勤職員の実態把握と公表はどうなっているか。また本来、正規職員として採用すべきものがこの制度によって代替措置とならないか。

【村山市長】臨時・非常勤職員の実態把握については、これまでの定員査定で培ってきた職員構成の精査の手法を継続しつつ、総務省のマニュアルを参考にしながら、現在、鋭意進めている。現在のところ、把握している情報の公表は考えていない。

毎年度、予算査定と並行して実施する定員査定において、各課等における職務の内容と業務量を十分精査した上で、正規職員と会計年度任用職員が、効率的・効果的に機能し、組織として安定的な行政サービスを提供していくことが

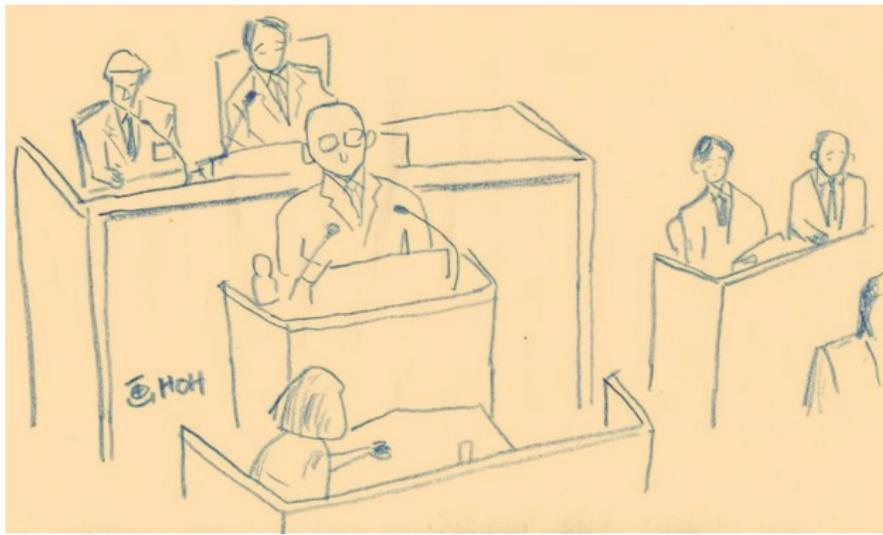


【プリムラ】サクラソウ科の園芸植物。プリムラという意味は「小惑星」。開花時期は品種によって異なりますが、12月～4月ごろに赤、白、ピンク、青などの花を咲かせます。写真は12月6日、吉川区下町にて撮影しました。

できるような、必要な人材を採用するとともに、適正な職員配置に努めていく。

【橋爪】11月18日にUPZ（緊急時防護措置準備区域。原子力施設から30キロ以内の町内会を対象に実施した、3回目となる原子力防災訓練の成果と課題、今後の訓練の充実をどう考えているか。

【村山市長】屋内退避訓練に参加した町内会の割合は、昨年の約7割弱から今年は100%町内会全ての参加となった。訓練を通じて、「まずは屋内退避」への理解が深まり、実践力もつちかわれた。この訓練については、3回の実施を経て、一定のノウハウが蓄積できている。今後は、自主防災組織が独自に取り組めるよう働き掛けも行いたい。バスによる避難経路所までの移動体験も実施した。県では、今年度中に広域避難計画を策定した上で机上訓練を実施し、来年度には実働訓練を実施する予定と聞いている。県の動きを注視しながら、今後の訓練の在り様について検討してまいりたい。



はしづめ法一の  
活動レポート

No.1889 2018.12.23  
発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず  
Tel 025-548-3628  
通じないときは 090-5392-1961  
E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp  
URL http://www.hose1.jp/

ブログ  
「ホーセの見たある記」は  
← こちら

橋爪法一 検索

# 原子力防災訓練、さらに充実を 耐震改修促進、会計年度任用職員制度などで一般質問

私は12月11日、市議会の一一般質問に立ちました。今回は市の耐震改修促進計画、再来年4月から始まる会計年度任用職員制度、そして原子力防災訓練の3つについて市長に質問しました。以下はその大要です。

【橋爪】当市の耐震改修促進計画は2年前の3月に策定され、今年は中間年だ。総合計画後期基本計画案にもある通り、「改修への投資意欲や地震に対する防災意識が高まらず、耐震化工事は十分には進んでいない」状況にある。取り組みの目標と現時点での課題について、それから今後の方策についてきたい。

【村山市長】耐震化率の将来目標値は、平成32年度末で一般住宅は87%、多数の方が利用する建物は95%と



設定した。本年度末の市内建築物の耐震化率はそれぞれ推計値だが、一般住宅は85.5%、多数の方が利用する建物は92%と見込んでいて、平成32年度末には、それぞれ計画に定めた目標値程度に達するものと推計している。市では、今年度から無料とした耐震診断の周知にも努め、所有者から積極的に耐震診断を実施していただき、居住する住宅の耐震性を把握していただく。また、補助事業の活用や相談対応に努めるなど、市民の皆さんに対し、強く働きかけてまいりたい。

【橋爪】会計年度任用職員制度は、昨年、地方公務員法及び地方自治法の一部改正のなかで新たに登場したものだ。市民から、「新たな待遇格差を生む制度になるのではないかな」などいろいろな心配の声が出ている。臨時・非常勤職員の実態把握と公表はどうなっているか。また本来、正規職員として採用すべきものがこの制度によって代替え措置とならないか。

【村山市長】臨時・非常勤職員の実態把握については、これまでの定員査定で培ってきた職員構成の精査の手法を継続しつつ、総務省のマニュアルを参考にしながら、現在、鋭意

進めている。現在のところ、把握している情報の公表は考えていない。毎年度、予算査定と並行して実施する定員査定において、各課等における職務の内容と業務量を十分精査した上で、正規職員と会計年度任用職員が、効率的・効果的に機能し、組織として安定的な行政サービスを提供していくことができるよう、必要な人材を採用するとともに、適正な職員配置に努めていく。



【プリムラ】サクラソウ科の園芸植物。プリムラという意味は「小惑星」。開花時期は品種によって異なりますが、12月～4月ごろに赤、白、ピンク、青などの花を咲かせます。写真は12月6日、吉川区下町にて撮影しました。

【村山市長】屋内退避訓練に参加した町内会の割合は、昨年の約7割弱から今年は1/5町内会全ての参加となった。訓練を通じて、「まずは屋内退避」への理解が深まり、実践力もつちかわれた。この訓練については、3回の実施を経て、一定のノウハウが蓄積できた。今後は、自主

【橋爪】11月18日にUPZ

(緊急時防護措置準備区域)原子力施設から30キロ圏内の町内会を対象に実施した、3回目となる原子力防災訓練の成果と課題、今後の訓練の充実をどう考えているか。

【村山市長】屋内退避訓練に参加した町内会の割合は、昨年の約7割弱から今年は1/5町内会全ての参加となった。訓練を通じて、「まずは屋内退避」への理解が深まり、実践力もつちかわれた。この訓練については、3回の実施を経て、一定のノウハウが蓄積できた。今後は、自主



市道下町小苗代線の新しい平和橋が18日、開通しました。写真は渡り初めをする人たち。写真は小苗代のKさん提供です。

はしづめ法一の  
活動レポート

No.1889 2018.12.23  
発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず  
Tel 025-548-3628  
通じないときは 090-5392-1961  
E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp  
URL <http://www.hose1.jp/>

ブログ  
「ホーセの見  
てある記」は  
← こちら

橋爪法一 検索

# 春よ来い

## 第五三七回 母の自転車に別れ

お父さん、ばあちゃん、燃えないごみの日に出してもいい一家族の者からそう言われたのは今月の半ばでした。

ばあちゃんの自転車というのは、母が長年乗っていた三輪自転車のことです。すでに一年以上乗ることなく、玄関の外に置きっぱなしになっていました。ブレーキは腐り、前輪のポークは一本が折れ、そのほかのものもあやしくなっていました。

これまで三輪自転車は、牛舎があったときは、冬になれば、牛舎にしまいました。牛舎をなくしてからは、わが家の狭い玄関の中にしまっていました。すでに使い物にならなくなっていて、どうにかせねばと思っています。三輪自転車を廃棄する提案にはそう迷うことなく、「いいよ」と返事をしました。

燃えないごみの日の前夜、「ばあちゃんの自転車に(市の指定)シール貼ったから、お父さん、明日の朝、出してね」と家族の者から言われたときも、「はいよ」と返事をしました。

当日の朝、三輪自転車を出す前に母の寝室へ行きました。母に声をかけずに出すのは申し訳ないと思ったからです。「ばあちゃん、おまんの自転車、だめになってるすけ、ごみんとこへ出すよ」そう言うと、母は、やはりあきらめ切れなかったのでしょう、小さな声で「おりゃ、ありゃ、ねきゃならんがでもな」と言いました。そのまま母の言うことに従うわけにはいきませんので、「はい、乗らんねかね」と私が言う

と、母はそれ以上言いませんでした。午前七時過ぎ、玄関の外に出た私は、母の三輪車の記念写真を撮りました。長年にわたり母の足となって畑仕事や買い物、孫の子守などで大活躍してくれた自転車で、母の分身(言いつつもよいもの)でした。

いよいよ、ごみ集積場へ。三輪自転車は母の手を引くような感じで引きました。左側の後輪のタイヤがパンクしているにしては軽かったですね。ただ、前輪のポークが壊れていたの、一回転することにガツチャンという音がしました。けっこう大きな音だったので、近くの家に聞こえるかも心配になりました。

もっとも、わが家からごみ集積場までの距離は二百メートルほどです。時間的には、いっときです。ガツチャンという音を出しながら三輪自転車を引き続けました。

この日、わが家からは三輪自転車の他にも「燃えないごみ」を二つの袋に入れて出しました。これらは三輪自転車をごみ集積場に置いたあと、車に乗せて運びました。そして、三輪自転車が風などで動かないようにと前輪と左の後輪付近に置きました。

こうして無事、ごみ集積場に母の三輪自転車を出すことができました。

その後、インターネットでこの経過とともに母の三輪自転車に別れを告げたことを発信したところ、ある人から「乗る乗らない、乗れる乗れないではなくて、きつと三輪自転車は橋爪家の景色の一部になっているのだと思います」というコメントが寄せられました。

このコメントが私の心に引っかかりました。それで、地元事務所を出て市役所に向かう前に、わが家に向かいました。自転車のない玄関の様子を見たかったです。

わが家に行くには県道柿崎牧線を横断しなければなりません。軽乗用車をいったん停止して、右左を確認したときでした。右手の遠くにあるごみ集積場を見たら、キラッと光るものが見えたのです。いうまでもなく母の三輪自転車です。私は、心の中で、「かんべんな」と謝りました。

## 楽しく、おもしろい活動を展開し地域づくり

### ニュースフラッシュ

#### 上越地域各消防署における空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	12月12日(水)	12月19日(水)
上越南消防署	0.047	0.047
上越北消防署	0.050	0.043
新井消防署	0.050	0.047
頸北消防署	0.040	0.043
頸南消防署	0.063	0.050
東頸消防署	0.040	0.040
高士分遣所	0.050	0.050
名立分遣所	0.057	0.040

地域活動フォーラムが16日、リージョンプラザ上越にて行われました。テーマは、「すこし先のことを考えてみませんか〜人口推計から将来を想像する」。市政の重要テーマのひとつです。

今回の事例発表は大島区の「大島っ子を育む会」と大島中学校の取組と牧区高尾の「高尾お茶飲み散歩」の取組です。

いずれも上越市内の中でも人口減少が著しい地域での取組ですが、これからどのように地域づくりをしていったらよいかを考えさせてくれる先進事例として注目しました。

大島中学校の生徒たちが「未来の大島を輝かせる5つの提案」をまとめ、「大島っ子を育む会」とともに実行に移している取組の内容、古澤博之校長や村松重彦さん(写真)がおかりやすく紹介してくださいました。

約1時間におたって行われた意



見交換。ここでは、ハッとするような発言が相次ぎました。

その1つ、大島区の村松重彦さんは、「大島っ子がこれほど真剣に考えている。我々も頑張らねば」という声が出ている。大島っ子の頑張りが地域の人に確実に刺激を与えている」とのべました。私も「よんご提灯祭り」に参加しましたが、すばらしい活動ですね。

2つの地域での事例発表・意見交換、いずれも共通の課題で悩む地域の人たちにとっては大いに参考になるものだったと思います。

# 春よ来い

## 第五三七回 母の自転車に別れ

お父さん、ばあちゃんの自転車、燃えないごみの日に出してもいい——家族の者からそう言われたのは今月の半ばでした。

ばあちゃんの自転車というのは、母が長年乗っていた三輪自転車のことです。すでに一年以上乗ることなく、玄関の外に置きっぱなしになっていました。ブレーキは腐り、前輪のポークは一本が折れ、そのほかのものもあやしくなっています。

これまで三輪自転車は、牛舎があったときは、冬になれば、牛舎にしまいました。牛舎をなくしてからは、わが家の狭い玄関の中にしまっていました。すでに使い物にならなくなっていて、どうにかせねばと思っています。三輪自転車を廃棄する提案にはそう迷うことなく、「いいよ」と返事をしました。

燃えないごみの日の前夜、「ばあちゃんの自転車に(市の指定)シール貼っただから、お父さん、明日の朝、出してね」と家族の者から言われたときも、「はいよ」と返事をしました。

当日の朝、三輪自転車を出す前に母の寝室へ行きました。母に声をかけずに出すのは申し訳ないと思ったからです。「ばあちゃん、おまんの自転車、だめになってるすけ、ごみんとこへ出すよ」そう言うと、母は、やはりあきらめ切れなかったのでしょう、小さな声で「おりゃ、ありゃ、ねきゃならんがでもな」と言いました。そのまま母の言うことに従うわけにはいきませんので、「はい、乗らんねかね」と私が言う

と、母はそれ以上言いませんでした。午前七時過ぎ、玄関の外に出た私は、母の三輪車の記念写真を撮りました。長年にわたり母の足となって畑仕事や買い物、孫の子守などで大活躍してくれた自転車で、母の分身(言いつつもよいもの)でした。

いよいよ、ごみ集積場へ。三輪自転車は母の手を引くような感じで引きました。左側の後輪のタイヤがパンクしているにしては軽かったですね。ただ、前輪のポークが壊れていたもので、一回転することにガツチャンという音がしました。けっこう大きな音だったので、近くの家に聞こえるかも心配になりました。

もっとも、わが家からごみ集積場までの距離は二百メートルほどです。時間的には、いっときです。ガツチャンという音を出しながら三輪自転車を引き続けました。

この日、わが家からは三輪自転車の他にも「燃えないごみ」を二つの袋に入れて出しました。これらは三輪自転車をごみ集積場に置いたあと、車に乗せて運びました。そして、三輪自転車が風などで動かないようにと前輪と左の後輪付近に置きました。

こうして無事、ごみ集積場に母の三輪自転車を出すことができました。

その後、インターネットでこの経過とともに母の三輪自転車に別れを告げたことを発信したところ、ある人から「乗る乗らない、乗れる乗れないではなくて、きつと三輪自転車は橋爪家の景色の一部になっているのだと思います」というコメントが寄せられました。

このコメントが私の心に引っかかりました。それで、地元事務所を出て市役所に向かう前に、わが家に向かいました。自転車のない玄関の様子を見たかったです。

わが家に行くには県道柿崎牧線を横断しなければなりません。軽乗用車をいったん停止して、右左を確認したときでした。右手の遠くにあるごみ集積場を見たら、キラッと光るものが見えたのです。いうまでもなく母の三輪自転車です。私は、心の中で、「かんべんな」と謝りました。

## 楽しく、おもしろい活動を展開し地域づくり

### ニュースフラッシュ

#### 上越地域各消防署における空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	12月12日(水)	12月19日(水)
上越南消防署	0.047	0.047
上越北消防署	0.050	0.043
新井消防署	0.050	0.047
頸北消防署	0.040	0.043
頸南消防署	0.063	0.050
東頸消防署	0.040	0.040
高士分遣所	0.050	0.050
名立分遣所	0.057	0.040

地域活動フォーラムが16日、リージョンプラザ上越にて行われました。テーマは、「すこし先のことを考えてみませんか〜人口推計から将来を想像する」。市政の重要テーマのひとつです。

今回の事例発表は大島区の「大島っ子を育む会」と大島中学校の取組と牧区高尾の「高尾お茶飲み散歩」の取組です。

いずれも上越市内の中でも人口減少が著しい地域での取組ですが、これからどのように地域づくりをしていったらよいかを考えさせてくれる先進事例として注目しました。

牧区高尾在住の植木美奈さん、鈴木明美さんの2人(写真)が「お茶飲み散歩」の取組を決意し、地元町内会や農事生産法人などの理解も得ながら、地域の住民やお客さんとの交流の輪をどんどん広げている報告は参加者を惹きつけるものでありました。

約1時間におたって行われた意



見交換のここでは、ハツとするような発言が相次ぎました。

その一つ、「活動していく中で地域の見方がどう変わっていったか」と問いかけられた鈴木さんは、「協力してくださっている人がどんどん乗り気になってきた。知り合いもどんどん遊びに来る。お茶飲み会をやっている家が元気なるのがうれしくて……。みなさんがうれしくなるのが私たちの励みになっている」と答えました。

2つの地域での事例発表・意見交換、いずれも共通の課題で悩む地域の人たちにとっては大いに参考になるものだったと思います。